

7番（小川義昭君）

今、建設部長のほうから、大正通り方向から駅南立体駐車場へ入るための右折道路の確保、これは歩行者の安全面を考慮した場合、大変困難との答弁をいただきましたが、そもそも駅前ロータリーは、車線幅が狭いなど非常に不便を来しており、しかも、石川県内で第2の人口を誇るこの白山市の玄関口としては、私はふさわしくないと思いますし、また、多くの市民からそのような声が上がっております。

そこで、私は、この駅前ロータリーについて、やはりもう少し抜本的な見直しが必要ではないかなというふうに考えております。

したがいまして、今後、ロータリー及び周辺の交通の利便性向上、こういうふうなことについて、さらに研究してみてはいかがかなということをお願いする次第であります。

それでは、次に、買い物弱者などに対する支援策についてお伺いいたします。

この質問については、昨日、宮岸、安実両議員からの質問がありましたし、きょうは午前中、清水議員からの質問がございましたが、私は、通告を取り下げず、私の視点で質問させていただきます。

今、過疎地域のみならず都市部においても、高齢者などを中心に食料品の購入や生活に必要なサービスを受けるのに不便を来している、いわゆる買い物難民、買い物弱者などがふえてきており、社会的な課題となっております。

本市においても、とりわけ松任旧町の町なかにあって重宝がられていたスーパーマーケット、東京ストアが平成22年、そしてナルックスが本年の10月に閉店しました。また、高齢者の人たちに重宝がられていた銭湯、松任温泉は平成23年に、そして富士の湯は昨年、平成27年に相次いで廃業しております。

移動の足を持たない高齢者の皆さんが、生活用品などの買い物や、生活に必要なサービスを受けるのに困難を強いられているのが現状であります。

このような中、本市は、来年度に向けコミュニティバスの見直しを検討されています。松任地域においては、市街地の回遊性を向上させるために、八ツ矢町、若宮町、新徳丸町にバス停を新設し、南八ツ矢町のバス停を移設、そして、布市町には通過するルートをつやすと同時に、バスの本数をつやす方向で来年4月からの実施を目指しておられると聞き及んでいます。

こうした見直しは、コミュニティバスに頼る市民の利便性を高めることが狙いであり、大変喜ばしいことと評価するものであります。

ですが、市内に暮らす高齢者約2万8,800人のうち、約13%を占める3,800人の人たちが居住するこの松任旧町においては、生活用品などの買い物や生活に必要なサービスを受ける高齢者の人たちが今後も増加していくことに違いは

ありません。しかも、天候のよい時期は、少々離れているスーパーなどには歩いて行けますが、雨風の日やこれから寒くなり雪が降る時期は、非常に困難を来すことであらう。

温泉施設に行くにしても、松任駅前からCCZ温泉行きのみぐーが往来していますが、便数が少なく、生活の足を持たない高齢者にとっては大変不便な現状にあり、何らかの対応策が必要かと考えられます。

そこで、これらの問題点を解決する手段として、民間企業などの協力を得るなどして、今後ますますふえる買い物弱者などに対する支援策を講じてはいかうか。

一方で、交通問題に関して言えば、全国で高齢者ドライバーによる痛ましい事故が相次いでいます。ブレーキとアクセルの踏み間違い、高速道路での逆走、年齢による運動能力・認知力の低下は、昔はお手の物だったはずの運転さえ難しくしてしまうのであります。受け入れにくいのが事実ではありますが、生活の足がないなどのやむにやまれぬ事情の中で、ハンドルを握る高齢者もいるのではないのでしょうか。

これらの問題を解決するには、高齢者ドライバーがすんなりと運転免許証をためらいもなく返上してくれる仕組みづくりが不可欠ではないのでしょうか。御見解をお伺いいたします。